

計量管理部会々報

<計量管理研修・見学会の概要>

平成29年2月15日、16日に行われました研修見学会の概要をご報告致します。

部会員会社17社18名の参加、集合場所の千葉駅前京葉銀行本店前を8時30分の出発となりました。

出発後、車内では計量管理部会部会長の富士石油株式会社 藤原様のご挨拶と参加者皆様の自己紹介を頂きました。

バスは、最初の見学地である神奈川県川崎市にあるミットヨ測定博物館へと向かい、予定到着時刻である10時00分に到着いたしました。

■ミットヨ測定博物館 概要

初めにミットヨ測定博物館 館長の水谷様よりミットヨの歴史、施設の概要を紹介して頂きました。



創業者の強い思いである仏教伝道の支援を通じて人々の幸福に寄与するため、1934年に創業、“人に迷惑をかけない”“世のため人のためになる”という共生の心に基づいて、当時100%輸入品であったマイクロメータに着目、国産化に成功、長さを測る原点、いわゆるミットヨの原点となりました。

また、水谷館長の丁寧な言葉使い、温和で癒される、やさしい声は創業者の精神、理念を受け継いでいるからこそ、発せられるものと感じました。

さて、ミットヨ測定博物館はミットヨ80周年を記念してリニューアルしており、昨年完成しております。

博物館の構成は、2階に測定機器館、3階に沼田記念館となっております。

2階の「測定機器館」は、世界の精密測定機器のルーツとその変遷を紹介する、世界でも類を見ない専門産業博物館です。1800年代以降の世界の精密測定機器、関連の技術資料、写真、書籍カタログ等を収集し、その中から代表的な機器と資料を展示されております。

3階の沼田記念館は、ミットヨ創業の理念と80年余の歴史的道りを8章に分けて展示されています。歴史を証言する貴重な物がたくさん展示されており、まさに日本の精密測定機器の歴史でもあります。

最後にミットヨ測定博物館をバックに集合写真を撮影して見学が終了しました。11時30分過ぎにミットヨ測定博物館を後にしました。

ミットヨ測定博物館様 どうもありがとうございました。



横浜中華街にて昼食をとり、次の見学地である株式会社オーバル様へ向かい、14時00分に株式会社オーバル 横浜事業所に到着いたしました。

■株式会社オーバル 横浜事業所 概要

最初に横浜事業所長の小野様に会社紹介をして頂きました。



創立は1949年、オーバル機器工業株式会社として創業され、当時はカタカナの社名は非常にユニークだったらしいです。1992年に現在の社名である株式会社オーバルに変更、国内に3社、海外に7社、連結従業員数は670人。計量における流体計測制御の専門メーカーとして産業界を支えています。オーバルと言えばオーバル歯車！なんと新宿にある本社ビルはオーバル歯車を彷彿させる楕円の形をしているようです。

続いて、製品検査グループ課長の畦本様より、各流量計の測定原理、検査設備に関してアニメーションを交えながら、詳しく教えて頂きました。測定原理には、学生の頃、習った数式、法則も使用されており、懐かしさと同時につらく苦い思い出が蘇ってきたのは私だけではないでしょう！

いよいよ製造工程から検査工程の見学ツアーが開始です。注意事項として、重油等の油物を扱っている為、洋服とかに付かないように注意してくださいとおっしゃっていましたが、工場内は、整理整頓されていて、非常に綺麗でした。

また、展示品として置かれているオーバルギアですが、見事なクリアランスで、グルグルと回すと不思議な感覚になると共に精密な加工技術があるから成せる技であると感じました。

また、コリオリ流量計では振動している2本のフローチューブを触り振動状態を体験、普段は見ることがない内部のセンサー部分も見せて頂きました。正確な計量機器なので、さぞ複雑な構造をしているのかと思いきや構造が単純且つシンプルである事には驚きでした。しかし、実際は卓越した匠の加工技術と最新のエレクトロニクス技術があるからこそ実現できた流量計であると感じました。

検査設備は横浜事業所の敷地面積の1/3を占める国内でも有数の規模を誇ります。巨大なパイプルーバーから微量の試験装置まで幅広くありました。

最後に計量管理部会第一副部会長の丸善石油化学株式会社 鶴澤様より御礼の挨拶を申し上げて見学を終え、事務所前で記念撮影を行いました。

株式会社オーバル様どうもありがとうございました。



以上で1日目の研修見学会が終了し、本日の宿泊先である修善寺温泉の「ホテル桂川」へ向かいました。途中、晴天に恵まれた事もありますが、千葉では見ることが出来ないくらい大きな富士山を眺めながら、皆さんほっと一息ついた感じです。

今夜は温泉で1日の疲れを癒し、懇親会で親睦を深めました。

研修2日目は8時30分にホテルを出発、静甲株式会社様へと向かい、バスは予定通り10時00分に静甲株式会社様に到着しました。

■ 静甲株式会社 概要

初めに清水工場 工場長の山下様から開会のご挨拶を頂き、続いて、計量管理部会部会長の富士石油株式会社 藤原様からのご挨拶、清水工場の各スタッフ紹介を経て、工場長補佐 梨本様から会社概要説明をして頂きました。



静甲株式会社は、1939年に清水精機株式会社として創業し、静岡県を中心に包装機械産業の生産部門が3工場(包装機械の販売はグループ会社の日本機械商事株式会社が担当)、商事部門の4営業所は建築設備、FA システム等のソリューション提案から建築防振、産業防振、空調設備機器、電気設備・昇降機器、タイヤの販売まで幅広く事業展開をしております。

特に全国ダンロップ代理店のコンテストで2年連続TOP販売を受賞し、ものづくりだけでなく、販売力にも長けている企業です。

また、技術伝承には匠塾というプロジェクトを展開、事業を通じて、地元の人と交流しながら、地域の社会貢献も積極的に行っています。

今回見学する清水工場は主に充填巻締機(複合機)を生産しています。複合機ですので、充填からキャッピングと様々な工程を1台で実施出来るようにカスタマイズされた多品種少量の生産システムで、あらゆるお客様のニーズにお応えしております。

まず初めに、ショールーム、製造工場、品質保証課の3箇所、3班に分かれて見学を行いました。ショールームには、つい最近まで現役で動いていた50年前の充填機がありました。大事に使われていた事もありますが、丈夫で壊れにくい製品を作られていたんだと感心致しました。

製造工場は工場と思えないくらい綺麗で静かでした。真剣な眼差しで議論を交わす技術者達が印象に残ります。

そしてあらゆるもの基準、ものさしとなる品質保証課。どこに行っても社員の明るさ、物作りへのこだわりが感じ取れました。

一通り、見学箇所を回り、第2部である質疑応答を行わせて頂きました。

<質疑応答>

Q：安全対策への取り組みを教えてください！

A：部品加工時の事故が多く、プレス工程では部品が飛んできたりします。保護メガネ、手袋等の防護具着用を指導しており、姿勢、慣れ、初めて装置を扱う時は特に注意をして事例紹介等交えて注意喚起を促しております。また、静岡という事もあり、地震対策も徹底していて、棚の固定はもちろん、書物に関してもバンドをかけて落下防止対策をしております。

Q：匠塾はどのようなやり方でどのように実施していますか？

A：以前は専用のアカデミー事務局を設置して運営し全社を纏めておりましたが、今は各拠点毎の運営となっており、7つの拠点があります。頻度は2ヶ月に1回の割合で開催され、5～6人の受講生と2名の講師、1名の親方で構成されています。実施後は報告書で取組みの内容、感想を纏め、校長(社長)に報告しています。各拠点毎の運営にしたことで、やらされ感が無くなり、非常に良い雰囲気になっています。今後も、人材育成、技術伝承の観点から継続していきたいと思っています。
補足：最初はベテランの技術者の講義を受けます。次の年には、講義を受けた者が講師となり、また次の世代に講義をする、この繰り返す仕組みが出来てきました。

Q：メンテナンスする際に部品が必要となります。50年前の機器が最近まで現役で動いていたとの事ですが、部品の改廃の影響とかがあると思いますが、調達はどうにしていますか？また、若い技術者は、この古い機器は不得手だと思いますが、メンテナンス時はどのようにしていますか？

A：部品自体は全て図面で残っており、調達は可能。若い人達は古い機器を見たことは無いのですが、古い機種ほど構造はシンプルになっており、応用が利きます。また、古い機種を熟知している者と一緒に行き勉強して、技術伝承もしております。

Q：工場内が明るく綺麗な事もありますが、なんと行っても社員の皆様が明るいです。物作りも素晴らしいのですが、良い社員を育てる研修とかを行っていますか？

A: 社内に700万枚近くの古い機種から新しい機種まで様々な図面が残っております。お客様が困らないようにと、全て電子化して、今後も活用できるようにしています。古い物も大事にする心、考え方は人も同じであると思っており、例えば、当社は三百数十人の会社ですが、この5～6年120人の新卒を採用しております、その間の退職者は1名であります。その1名の退職者の辞めた理由も幼いころからの夢である、消防士になる夢を叶えるために辞めたらしく、とにかく、人が辞めない会社である。辞めない理由は知りません。しかし、社員同士仲が良い事、経営者も人を大事にするというスタンスが非常に強い事が必然と社員に伝わり、良い雰囲気、静甲イズムを作り出しているのではないかと思います。

活発な意見が飛び交った質疑応答でした。

第2部の質疑応答も終わり、最後に日本機械商事株式会社 代表取締役社長 鈴木様より閉会のご挨拶を頂き、ショールームで記念撮影を行い、見学が終了いたしました。

静甲株式会社様、日本機械商事株式会社様 どもありがとうございました。



「清水河岸の市」で昼食をとり、おいしく海の幸を堪能しました。

食後は帰路途中に天女の羽衣伝説でも知られる景勝地「三保の松原」に寄り、本日も希にみる晴天で、霊峰富士と松林の緑、打ち寄せる白波、海の青さが織り成す風景は一枚の絵のようでした。

美しい景色にサヨナラをして、新東名高速、アクアラインを経て、少し遅れましたが、18時30分頃に千葉駅前京葉銀行本店前に無事到着、2日間の研修見学会が終了致しました。

参加者の皆様、大変お疲れ様でした。

これからも、研修見学会にご参加頂けますようよろしくお願い致します。

計量器・計測機器

製造・販売・修理・保守管理
計量士による代検査・ISO関係検査

計量器・計測機器に関する御用は何でもご照会下さい



ETO
恵藤計器株式会社

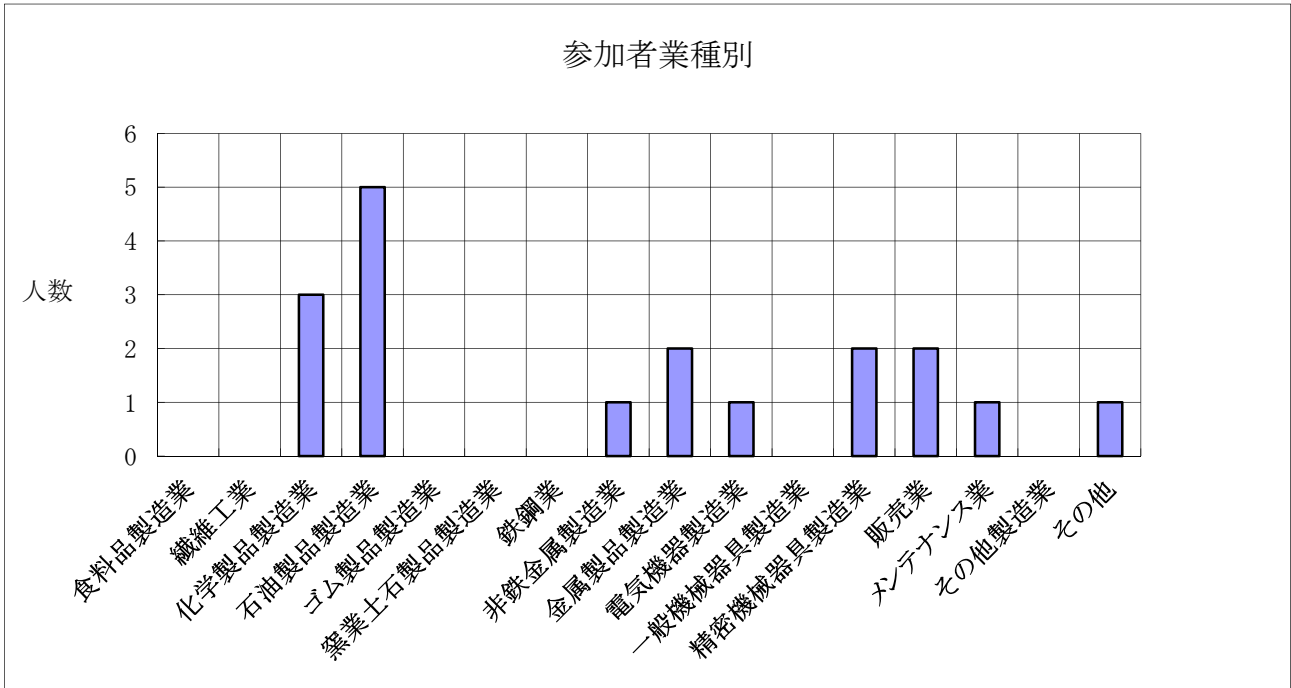
本社・工場

住所 〒261-0002
千葉市美浜区新港142-3
電話 043(242)0505 (代表)
FAX 043(243)2519
e-mail etokeiki@Saturn.plala.or.jp

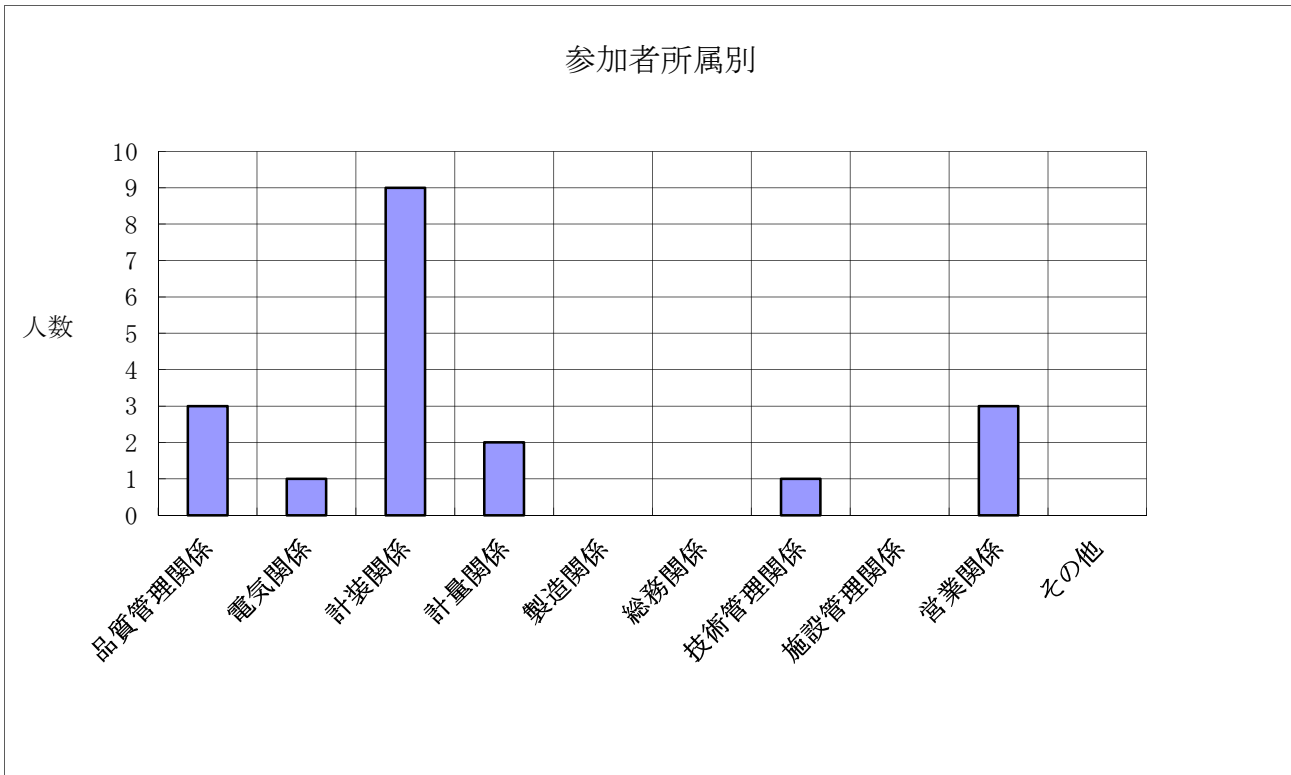
恵藤計器株式会社は国際MRA対応
JCSS認定事業者に認定されました!

平成28年度 研修見学会アンケート報告

I. 参加者 業種別

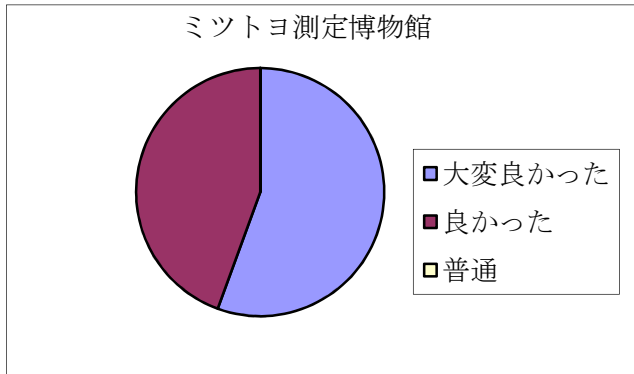


II. 参加者 所属別

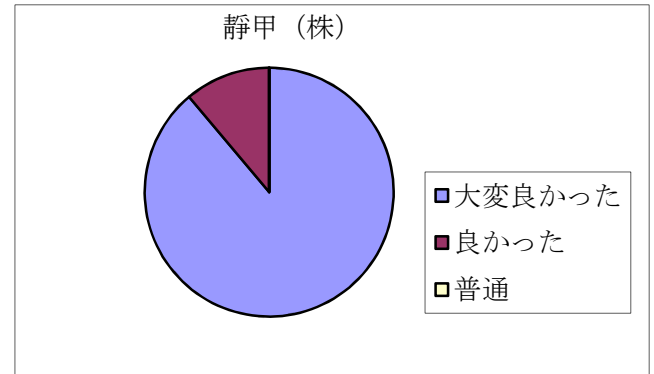


※複数回答した方が1名居られます。

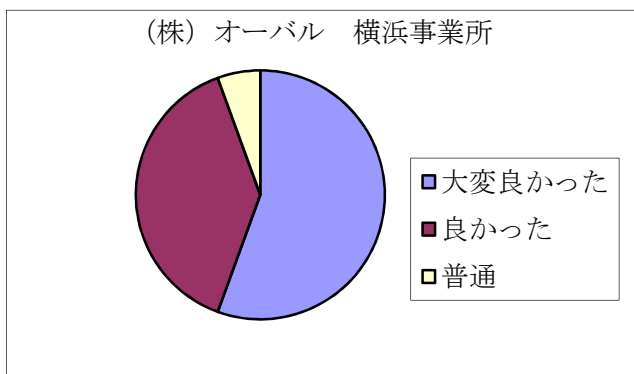
Ⅲ. 見学場所別 感想



- ・世界中から長さ測定に関する測定器が良く集められていた。



- ・会社、社員がとても明るい工場だった。



- ・社員一同、技術も丁寧だった。
- ・見学時間をもう少し長めにとって欲しかった。

Ⅳ. スケジュールについて

集合時間：良い 17名

見学時間：良い 17名

※無回答の方が1名居られます。

Ⅴ. 研修見学会で気づいた点や感想

- ・見学地3カ所共に物作りに取り組むトップ、社員の思いを感じることが出来た。良い会社を選定していただいた。
- ・解散の時間がやや遅れた点は改善してほしい。
- ・計量、品質管理両面からとても参考になった。特に工場の作業での情報を円滑に広める点に於いて改善案として提案したい。
- ・今回初めて参加させて頂いた。他社の考えを工場見学の中で知ることが出来、とても有意義な時間だった。

Ⅵ. 今後の研修見学会に希望する事

- ・ここ数回の研修会は移動スケジュールが厳しい工程であり、次回はゆっくりできる工程での研修地を希望する。
- ・国立研究所等を見学希望する。
- ・適度な時間割だと思うが、あともう少し時間的な余裕がほしい。
- ・木～金の日程を希望する。

アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。

キャリブレーション・サービス

azbil

計測設備の検出端から表示装置までを含めた計量管理対象機器をISO9000s、医薬品GMP、HACCPなどの要求事項に適合した形でトータルソリューションサービスをご提供いたします。

お客さまとご相談の上、適切な実施計画をたてプロセスに最適な効率のよい計量管理をご提案致します。

実施提案

計量管理

キャリブレーションの結果から周期の管理や見直し、精度管理、さらにはデータの電子化にも対応いたします。

書類の準備

計量管理全般の基準を反映させ、個別の手順書を文書化していきます。勿論、お客様のフォームにあわせた形で提出可能です。

トレーサビリティ

キャリブレーション作業に用いた計測器（標準器）はすべて国家標準にトレーサブル。各種証明書、成績書は即時発行可能です。

キャリブレーション作業

作成された手順書に従いキャリブレーション作業を実施いたします。

実施提案

管理対象抽出
精度設定
周期設定
計量管理方法設定

書類の準備

管理機器リスト
計量管理要領
校正手順書
校正計画書
記録書フォーム

キャリブレーション作業

温度計校正
圧力計校正
その他の校正
記録書発行
ラベル発行

計量管理

周期管理
周期の見直し
精度管理
来歴管理

提出書類

一般計測器成績書
トレーサビリティ証明書
トレーサビリティ体系図
上位標準器成績書

キャリブレーションサービスでは、お客さまの立場に立ち、製品品質を維持するために何を管理対象にするか、どのくらいの校正精度、校正周期が必要か、などといった問題を解決し、対象機器のリストアップから手順書作成、校正作業、データの分析、有効期限管理、さらに校正手法、校正周期の見直しに至るまで、計量管理の全てを実現、最適な計量管理を達成いたします。

YOKOGAWA ◆

ご存知ですか?
デジタル・センシングの力!

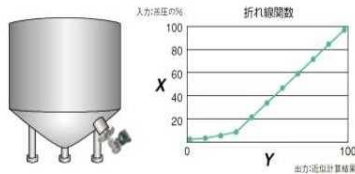
DPharpシリーズの大きな特長である「シリコンレゾナントセンサ」は、ヒステリシスが非常に小さいことで知られる単結晶シリコンのチップに、マイクロマシニング技術で2つの振動子を埋め込んだ、再現性・長期安定性に優れたセンサです。発売以来200万台以上の販売実績を持ち、世界のお客様より高い評価をうけています。



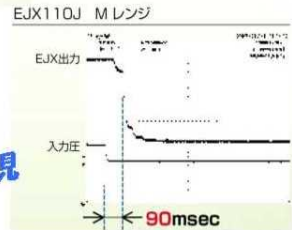
DPharp EJX™



差圧/静圧を1台で
マルチセンシング



折れ線近似出力機能で
異形タンク等ノンリニア特性にも対応
世界最高水準の
高速応答を実現



新 Asset Excellence
を実現する
フィールド機器設定/情報管理ソフトウェア
FieldMate™
Versatile Device Management Wizard

総合代理店

横河電機株式会社
■本社 〒180-8750 東京都武蔵野市中町 2-9-32
国内プロダクト営業1部 TEL: 0422-52-6490

横河商事株式会社
■千葉支店 〒299-0111 千葉県市原市姉崎 541 小池ビル4階
TEL: 0436-61-4310

横河ソリューションサービス株式会社
■千葉支店 〒299-0111 千葉県市原市姉崎 727-3
TEL: 0436-61-1388
2015年10月より
■千葉支店 〒299-0111 千葉県市原市姉崎 867

東京電機産業株式会社
■千葉支店 〒260-0825 千葉県千葉市中央区村田町 1211
TEL: 043-300-8611

■銚子営業所 〒288-0817 千葉県銚子市清川町 11-4-12
TEL: 0479-23-338

《計量検定所だより》

◎平成29年度人事異動のお知らせ

転出者（() は新所属等）

検定・検査課 課長 西沢 和夫 （防災危機管理部 産業保安課 副主幹）
 検定・検査課 副主幹 山崎 啓延 （商工労働部 産業支援技術研究所 副主幹）
 検定・検査課 主事 小林 道隆 （企業土地管理局 経営管理課 主事）

退職者（() は新所属等）

次長 石野 啓子 （総務部 職員能力開発センター 副主幹）

転入者（() は旧所属等）

次長 曾我部 伸一 （企業土地管理局 経営管理課 副課長）
 検定・検査課 課長 橋口 朝光 （防災危機管理部 産業保安課 副主幹）
 検定・検査課 主査 渡辺 宏 （県土整備部 葛南土木事務所 主査）
 総務企画課 主事 高橋 真奈美 （千葉県立多古高等学校 主事）

内部異動（() は旧配置・職）

検定・検査課 主事 勝村 典貴 （総務企画課 主事）

《理事会だより》

第53次全体会議（書面審査）のお知らせ

千葉県計量管理協議会が（一社）千葉県計量協会の会員から計量管理部会に移行されたことに伴って新規制定しました部会則に基づき、全体会議を書面審査にて行うことをご連絡いたします。

この全体会議においては従来通常総会において審議されました事業の運営に関する事、予算・決算に関する事、役員を選任に関する事、会則の変更に関する事、その他本部会の運営上特に重要なことを審議するものです。

つきましては、部会員の皆様には5月中旬頃に「第53次全体会議議案集および同意書」を郵送いたしますので、各附議事項について内容をご確認され、同封された同意書に「同意する」あるいは「同意しない」に○印を付けて、下記事務局へご回答くださるようお願い申し上げます。

同意書の回答期日は5月24日（水）までと定めさせていただきますので、期日までにご回答くださいますよう、宜しく願いいたします。

なおご回答はFAXもしくはEメールにてお願いいたします。

（一社）千葉県計量協会 計量管理部会 事務局
FAX番号 043-287-1586
Eメールアドレス chibakeiryuu@ybb.ne.jp

幸せは、名もない一日につまっています。
どんなさりげない一日にも、心を澄ませば
感じる幸せが、いっぱいつまっています。
小鳥の声でめざまめる幸せ。洗いたてのシャツに
腕を通す幸せ。炊きたてのご飯を
噛みしめる幸せ。雲ひとつない青空を
仰ぎ見る幸せ。「行ってらっしゃい」と
家族に送り出される幸せ。誕生日や、
結婚記念日や、クリスマスも大切だけれど、
人生の大半を占める、そんなふつうの
一日一日がどれほど大切か。ライオンは、
そのことを誰よりも知っています。
なぜなら、そこにライオンがいるからです。
そこに、ライオンの仕事の場があるからです。
いつも人のそばにいて、めぐり来る
すべての一日の、人の清潔、人の健康、
人の快適、そして人の環境を守りつづけること。
それこそが、私たちライオンの変わることのない
使命であり、誇りでもある。そう考えています。
幸せは、毎日生まれる。
人のからだやくらしが求める、
希望に満ちた新しい未来を、日本ばかりでなく、
広く世界にも届けられることを大きな
よろこびとしたい、私たちライオンです。

今日を愛する。

LION

